

環境経営レポート

2019年度

期間 2019年3月～2020年2月



エコアクション21

認証・登録番号 0008654



有限会社 細川樹脂



作成 2020.6.01

改訂 2021.4.20

目次

1. 組織の概要	Page 3
2. 対象範囲	Page 4
3. 環境経営方針	Page 4
4. 環境経営組織	Page 5
5. 環境経営目標と達成手段	Page 6
6. 環境経営活動の状況	Page 7
7. 環境関連法規等の遵守状況	Page 9
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果	Page 10

1.組織の概要

(1) 事業者 有限会社 細川樹脂 <http://www.hosokawajushi.co.jp>
電話:044-433-3950 FAX:044-433-6211

(2) 所在地 本社 〒211-0022 神奈川県川崎市中原区荻宿30-1
敷地面積 244.7m² 床面積 337.4m²
第2工場 〒211-0022 神奈川県川崎市中原区荻宿45-1 帝国通信工業構内5号棟
敷地面積 92.3m² 床面積 141.3m²

(3) 代表取締役 細川 真澄
e-mail info@hosokawajushi.co.jp

(4) 環境管理責任者 細川 真澄

(5) 環境事務局 細川 春美、柴田 和治
e-mail info@hosokawajushi.co.jp

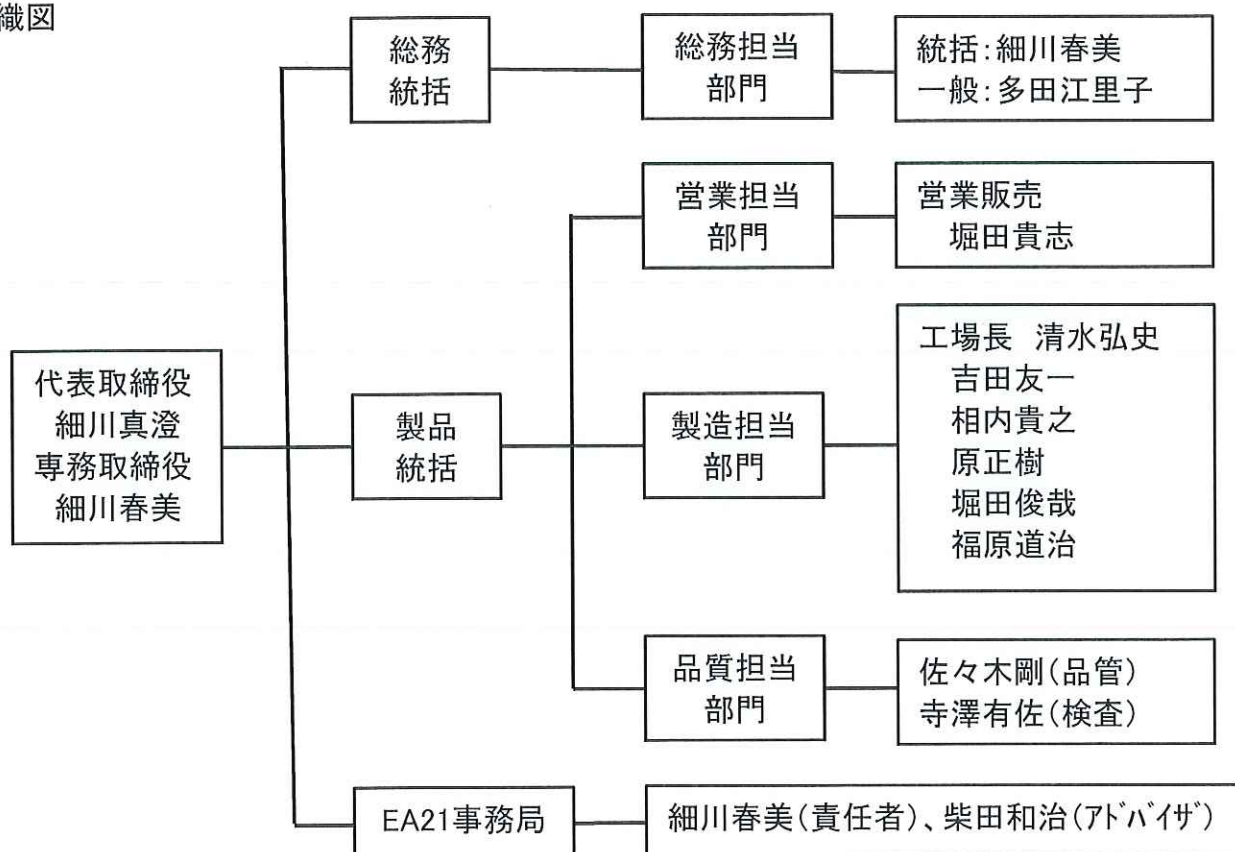
(6) 事業規模

設 立	1990年3月
資本金	1000万円
社員数	12名(2020年2月現在)
年間売上	208百万円(2019年度)



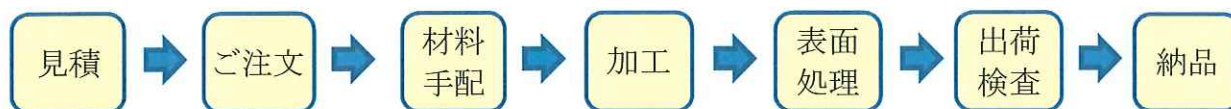
(7) 事業内容
樹脂加工品の製造・販売、樹脂素材の販売

(8) 組織図



2. 対象範囲

- (1) サイト 有限会社 細川樹脂(本社、第2工場)
- (2) 対象 全社員
- (3) 事業活動 樹脂加工品の製造・販売、樹脂素材の販売



注文加工の流れ

- (4) 2012年8月31日エコアクション21認証登録、登録番号0008654

3. 環境経営方針

【基本理念】

当社は、プラスチック加工の事業活動を進めていく中で、環境保全が重要課題の一つとして認識し、豊かな社会の形成に貢献していくことを目指します。

【行動指針】

1. 事業活動に伴って発生する環境負荷の削減に努めます。
2. 環境経営システムを効果的に運用することにより、環境保全に努めるとともに継続的な改善を図ります。
3. 環境に関する法規制や地域との協定を順守します。
4. 環境経営活動の重点課題
 - (1) 品質確保と納期管理
 - (2) 工場、事務所内での省資源・省エネへの取組み
 - (3) 生産プロセスに伴う廃棄物の削減とリサイクル活動
 - (4) 危険物、災害などの防止
 - (5) 5S 活動による業務効率化と社員のモラル向上
5. 重点課題を達成するために、環境経営目標を定め、自主的且つ積極的に活動を展開するとともに、定期的に環境経営方針の見直しを実施します。
6. 環境経営方針を全社員に周知するとともに、環境経営レポートを作成し、ホームページで社外に公表します。

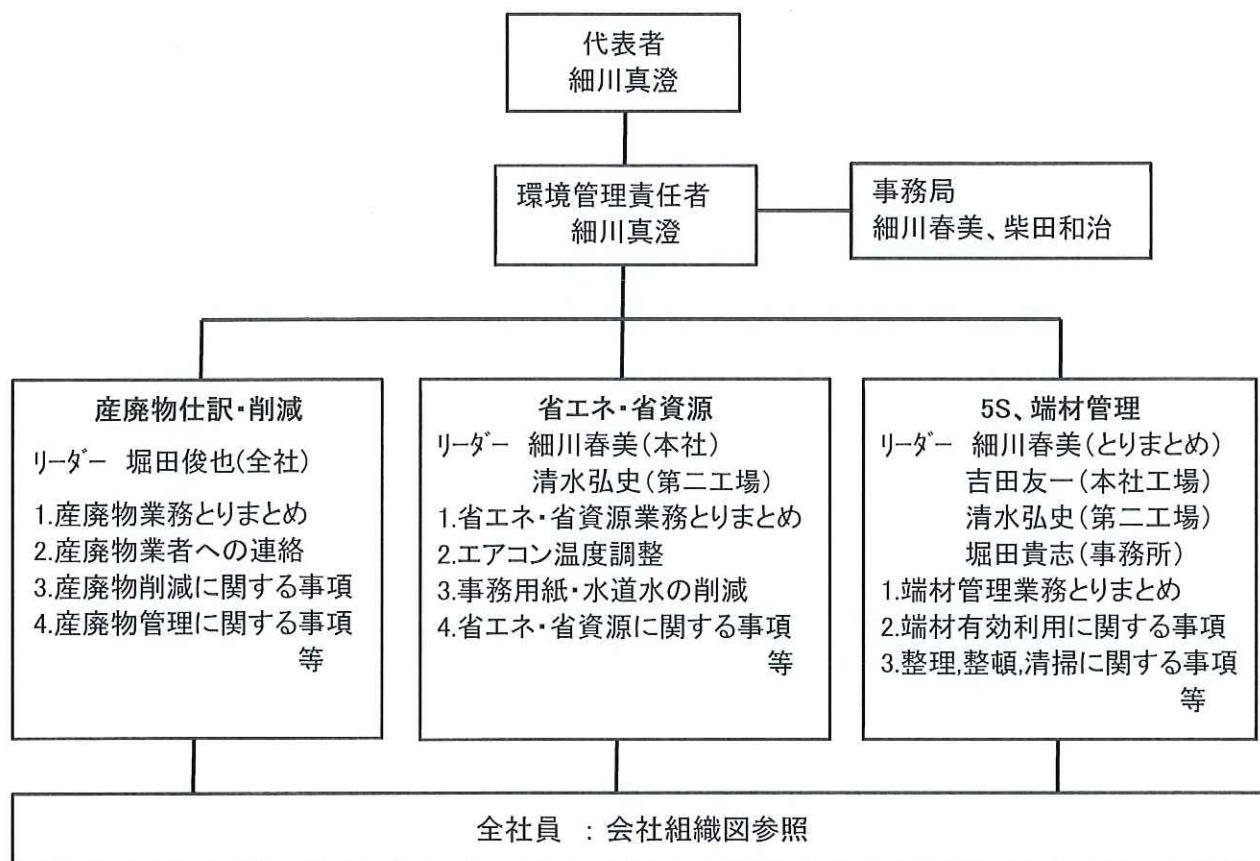
2017年3月15日

(有)細川樹脂

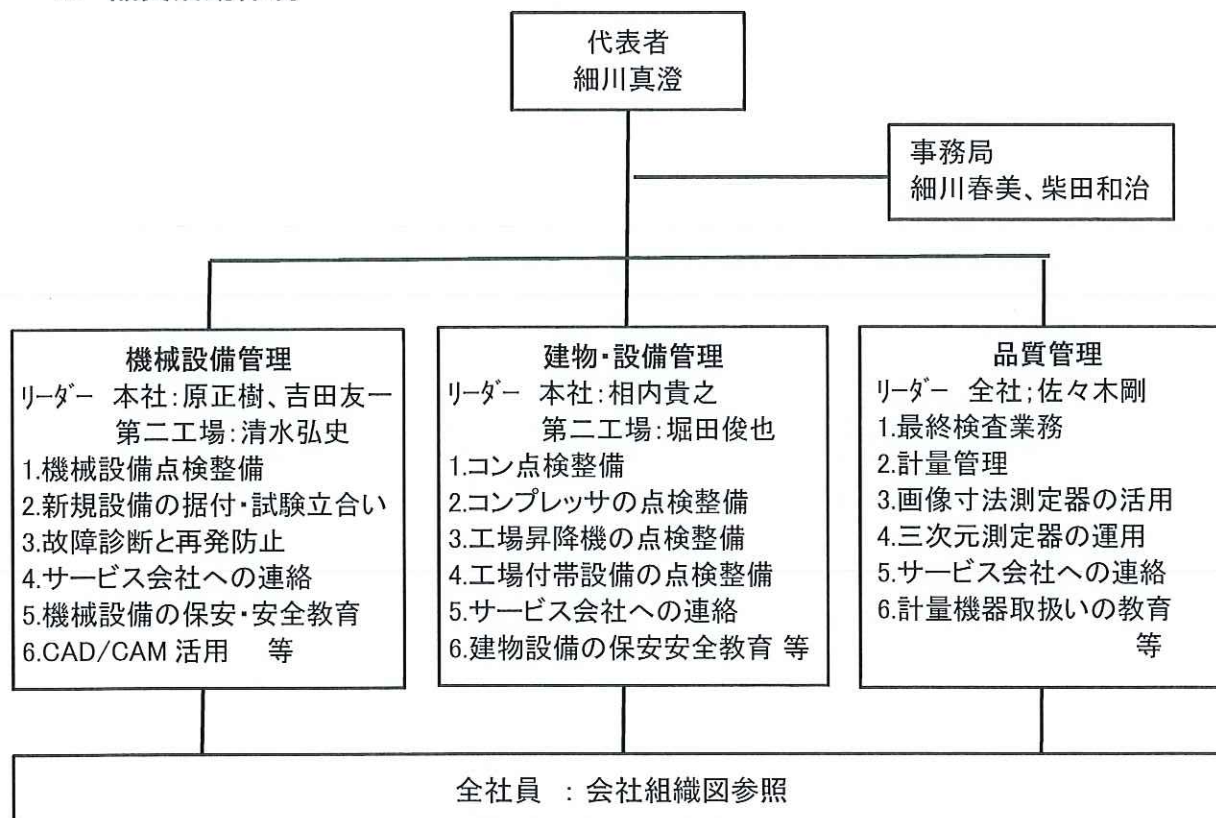
代表取締役 細川真澄

4. 環境経営組織（2020年4月現在）

4.1 環境活動体制



4.2 品質活動体制



5 環境経営目標と達成手段

5.1環境経営目標の設定

目標管理を導入して、環境経営方針に掲げた重点課題の目標値を図表1に示します。

図表1. 目標管理項目と目標値⁹¹⁵⁰

目標管理項目				基準年	目標		
管理項目		評価特性	単位	2017年	2018年	2019年	2020年
品質管理	不良品流出防止	客先納入点検	客先指摘件数	9	≤8	≤8	≤8
	加工ミスの減少	検査成績全体	不良率%	2.1	≤2.0	≤2.0	≤2.0
		内製;最終検査	↑	1.7	≤1.8	≤1.8	≤1.8
		外注;受入検査	↑	3.5	≤3.0	≤2.5	≤2.2
納期管理	納期遅れゼロ	納期遅れ	納期遅れ件数	0	0	0	0
二酸化炭素	電力	電力使用量	kwh/百万円	466	≤470	≤529	460
	ガソリン	ガソリン使用量	ℓ/百万円	86	≤8.2	≤94	≤8.2
	二酸化炭素	CO2排出量	Kg-CO2/百万円	264.3	≤265	≤299	≤260
省資源	油脂保管量	潤滑油購買量	ℓ/百万円	0.54	≤0.65	≤0.6	≤0.6
	コピー用紙	購入量	kg/百万円	0.43	≤0.50	≤0.51	≤0.45
	水資源の節約	水道使用量	m3/人・月	1.61	≤1.9	≤1.9	≤1.9
	製品歩留まり	購買重量比	製品化率%	49.7	≤45.0	≤50	≤50
廃棄物	廃プラスチック	廃プラ排出量	kg/百万円	28.8	≤40.0	≤46.0	≤40.0
	一般廃棄物	一廃排出量	kg/百万円	3.91	≤3.60	≤3.70	≤3.80
5S活動	3S向上活動	目視評価	—	◇	○	○	○
化学物質	適正管理	チェックリスト	—	○	○	○	○

注1 品質確保と納期管理は、環境に優しいモノづくりとして推進中

注2 電力のCO2排出係数は 0.525kg-CO2/kwh を採用

注3 3S 向上活動は業務効率化の基本に位置づけ、目標管理活動として試行中。

注4 表中の○は、別に定める基準を満足していることを示す

5.2 環境経営目標の達成手段

環境経営目標の達成手段(取組内容)を図表2に示します。

図表2. 環境経営目標の達成手段

凡例 ○:計画通り

区分	環境管理項目	達成手段:取組内容	状況
品質確保	不良品流出防止	工程品質、及び最終検査の徹底	○
	不具合品の減少	完成品検査の目標管理導入2018/4～	○
納期管理	納期遅れゼロ活動	日常管理の徹底とサプライヤの有効活用	○
二酸化炭素	消費電力の削減	デマンドコントロールによる電力の削減 夏27℃ 冬20～22℃に設定	○
		エアコンフィルターの定期清掃	
		設備機械のアイドリングストップ	
		照明機器は、不要時には電源OFF 事務所室内照明の LED 化 2015/8～	
		OA機器は、夜間・休日には電源OFF	
	ガソリンの削減 (社有車)	社長専用車の HEV に代替 2015/8～	○
		アイドリングストップ	
		急加速・急停車の防止	
		冷暖房の控え目使用	
省資源	樹脂材料の有効活用	製品に合わせた材料取りの適正化	○
		端材管理の改善 2017/10～	
		機械加工ミスの削減	
		材料歩留りの目標管理	
	油脂類の削減	潤滑油購入量の適正化	○
		潤滑油置場の適正化	
	紙類購入量の削減	裏紙/両面焼きの励行	○
		注文書/見積書の電子データの活用	
	水資源の節約	トイレ/手洗い所に節水マークの表示	○
化学物質	適正管理	定置棚による一元管理2017/10～	○
廃棄物	廃プラの削減	端材の有効活用	○
		加工ミス削減 の目標管理2018/3～	
	一般廃棄物の削減	事務用紙の削減	○
		梱包用ダンボールの業者引取り	
5S活動	インフラ整備 倉庫新設:第二工場2階 整理棚設置:材料置場、治工具、検査機器、化学物質等		○
	3S(整理・整頓・清掃)活動の目標管理2018/3～		

6. 環境経営活動の状況

6.1 目標管理項目の達成度 図表3

- (1) 二酸化炭素排出量に関する電力使用量は目標未達。
 (2) 省資源に係るコピー用紙購入量は目標未達。

図表3. 目標管理の達成度

分類	目標管理項目		単位	2019年度		達成度
				目標	実績	
品質確保	不良品流出防止	客先納入点検	客先指摘件数	≤8	16	
	加工ミスの減少	検査成績:「全体」	不良率%	≤20	1.8	
		最終検査:内製	↑	≤1.8	1.4	
		受入検査:外注	↑	≤25	3.1	
	サンプルサイズ			—	9150	—
納期管理	納期遅れゼロ	納期遅れ	納期遅れ件数	0	0	○
二酸化炭素	電力の削減	電力使用量	kwh/百万円	≤529	587	▼
	ガソリンの削減	ガソリン使用量	L/百万円	≤90	88	○
	二酸化炭素換算注1	CO2排出量	kg-co2/百万円	≤299	299	○
省資源	水資源の節約	水道使用量	m3・年	≤1.95	1.84	○
	油脂類保管量	潤滑油購買量	L/百万円	≤0.65	0.50	○
	コピー用紙	購入量	kg/百万円	≤0.50	0.68	▼
	製品歩留まり	購買重量比	製品化率%	45≤	48.8	○
廃棄物	廃プラスチック	廃プラ排出量	kg/百万円	≤400	37.0	○
	一般廃棄物	一廃排出量	kg/百万円	≤360	3.34	○
5S 活動	整理整頓清掃の充実	3段階評価	A 評価点	○	○	○
化学物質	化学物質の管理	見える化管理	管理棚一元管理	○	○	○

達成度の判例 ○:目標クリア、▼:目標未達

注1 2019年度売上高が想定以下のため目標未達となった

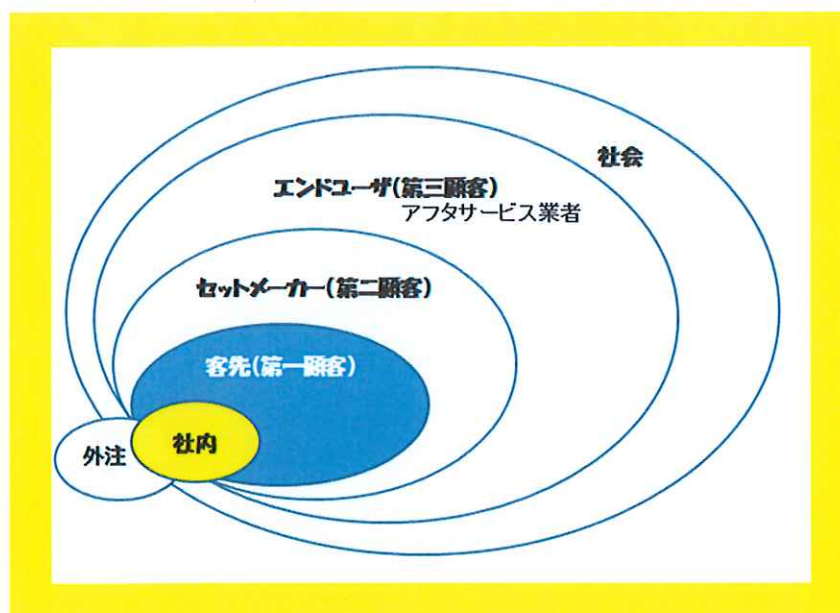
6.2 その他の環境経営活動

- (1)教育/訓練 :防災訓練、品質月間教育、当社の環境経営システム教育
- (2)外部コミュニケーション
 - ・外注業者とのメールでのコミュニケーションにより、コロナウイルスのリスク軽減。

6.3 今後の取組み

- (1)ES(社員満足)意識 :働き方改革とやりがいの実現
作業環境の改善、労働時間短縮等の働き方改革を実践します。
社員の主体的活動による品質確保と業務効率化を推進します。
- (2)CS(顧客満足)意識 :お客様のひろがり(図表4)を意識したものづくり
SDGs(持続可能な開発目標)を活用して意識改革を図ります。
品質確保と納期管理を最重点課題にして継続的改善活動を推進します。

図表4 お客様のひろがり



7. 環境関連法規等の遵守状況

- (1)環境関連法規等の遵守状況「コンプライアンス」 図表5
- (2)環境関連法規への違反、訴訟等の有無
環境関連法規に対しての違反はありません。
また、関係当局及び利害関係者からの訴訟・指導・苦情等は、まったくありません。

図表5 コンプライアンス2018

適用法規	届出施設	内容	遵守状況
1.川崎市条例 騒音・振動規制法	空気圧縮機 (7.5kw、11kw)	特定施設届出	○
		敷地境界線基準値の遵守	○
2. 川崎市条例 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	なし	産廃物処理委託業者との契約書締結	○
		産廃物管理票による管理	○
3.川崎市火災予防条例	指定可燃物貯蔵施設	貯蔵施設の届出及び表示	○

8. 代表者による全体の評価と次年度2020の課題)

《今年度2019の全体評価》

- ・生産効率の向上を目標に工場内の機械を1階に集約して、導線を短くしたことはこれから先において効果が期待されます。
- ・働き方改革において夜間勤務時間の前倒しにして昼勤社員の残業減少につながりました。有給休暇の取得についても大幅に改善が見られました。

《次年度2020の課題》

- ・近日における新型コロナウイルスの影響についてしっかり対応していきます。
- ・SDG s（持続可能な開発目標）を視点にして、働き方改革にチャレンジします。
- ・チャンスと機会をより具体的に環境・品質活動の活性化を図ります。
- ・目標管理の継続的活動を推進します。